

令和4年度 南信州喬木村創生有識者会議 有識者評価シート（令和3年度事業分）

基本目標 1

基本目標 1	数値目標_基本目標の達成度合いを測る数値	単位	基準値 (R1)	R3年度数値	R4年度数値	R5年度数値	R6年度数値	R7年度数値	最終年目標値 (R7)	目標値基準	達成度 (参考)	R3評価 評価シートより	
安定した雇用を創出する	○ 村内企業数 (個人含む) <small>経済センサス基礎調査より</small>	社(者)	278	R5.3 公表予定	—	R7.3 公表予定	—	R9.3 公表予定	290	単年度	—	—	
	○ 新規就農者数 <small>5年間の延べ人数</small>	人	11 (H27~R1)	2	(R3~R4)	(R3~R5)	(R3~R6)	(R3~R7)	15	累計	67%	△	
			各年度目標値 (最終目標を按分)	3	6	9	12	15					
	基本目標達成に向けた施策	KPI__重要業績評価指標	単位	基準値 (R1)	R3年度数値	R4年度数値	R5年度数値	R6年度数値	R7年度数値	最終年目標値 (R7)	目標値基準	達成度	達成状況
	(1) 農業の競争力の強化	施設栽培面積	ha	7.2	7.4					8.0	単年度	93%	◎
	(2) 新規就農者支援	新規就農相談件数	件	8	19					8	単年度	238%	◎
	(3) 地域産業の競争力強化	製造品出荷額等	億円	67	63					70	単年度	90%	△
	(4) 産業振興と人材育成の拠点の活用 (広域連携)	工業技術試験研究所利用件数 <small>目標値は5年間の累計</small>	件	843	726	(R3~R4)	(R3~R5)	(R3~R6)	広域でR6までの目標を設定しているため R7数値なし	3,400	累計	85%	△
		各年度目標値 (最終目標を按分)			850	1,700	2,550	3,400					
	(4) 産業振興と人材育成の拠点の活用 (広域連携)	信州大学共同研究講座学位取得者数 <small>目標値は5年間の累計</small>	人	6	4	(R3~R4)	(R3~R5)	(R3~R6)		24	累計	67%	△
各年度目標値 (最終目標を按分)				6	12	18	24						
(5) 企業立地促進	誘致企業及び起業数 <small>目標値は5年間の累計</small>	社(者)	3	1	(R3~R4)	(R3~R5)	(R3~R6)	(R3~R7)	18	累計	28%	△	
		各年度目標値 (最終目標を按分)			3.6	7.2	10.8	14.4					18

	評価レベル	評価基準	評価
事業評価	○ 地方創生に非常に効果的であった	全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合	1
	○ 地方創生に相当程度効果があった	一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合	0
	○ 地方創生に効果があった	KPI達成状況は芳しくなかったものの、取組が前進・改善したとみなせる場合	11
	○ 地方創生に対して効果がなかった	KPIの実績値が基準値よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合	2
	—	評価なし	5
提案	コロナ禍やロシアのウクライナ侵攻により農業が見直されている。また新規就農の相談が増加が見込まれる。この農産物なら村と言われるような特産物を作るなど、しっかりとした受け皿と作る必要がある。テレワークオフィスの設置、ICTを利用した働き方の提案。堰下の跡地利用を企業誘致をするのかも早期の検討が必要。		
提案	広域の中でバイオマス発電施設が出来れば、雑木や竹林の整備が進むと思う。村内に限らない。		
提案	コロナ禍の中、令和元年を基準値とする評価が低調なのは、仕方ないことと思う。その中でも施設栽培1件の備付、1ターンの新規就農など、成果があったと思う。対面でのPRが難しい今、SNS等で村の就農等の魅力発信をさらに工夫すればいいと思う。		
感想	豊丘村、高森町に比べ企業誘致は条件的にも難しそう。小企業(小売業)や新規就農者に重点を置き、他町村より魅力ある施策を考えたらと思う。(高齢農業従事者の活用など)		
感想	企業立地の促進は、力を入れるべき。安定した雇用の創出につながる条件は、今後少しずつ整っていくのではないかな。		
感想	新規就農者支援など村の取り組みは評価できる。企業誘致では、伊久間区に工場用地を確保できたことは良かったが、村全体では企業誘致の少なさが若者の雇用に効果があったとは言えない。		
感想	担い手研修制度が効果的に運営され、意欲ある就農者を毎年生み出している。今後も地域農業振興に向け、行政とJAが連携して対応できるよう情報共有や協議の場を設けていくことができればと思う。		
感想	新規就農者支援は目標を超えており評価できるが、企業誘致等については非常に苦労している。リニアによる移転企業は村内での移転となり、それに対しては高く評価できる一方、新規の企業誘致は近隣町村に遅れをとっている。今後もリニア工事が完了するまで思うように北地区の再開発が進まないことが予想される。		
感想	新規就農については、JAの担い手育成プログラムの効果が出始めてると思われる。製品出荷額についてはコロナ禍の影響もあるかと思われるが、次年度以降の様子を見たい。		
感想	農業以外の産業が伸びない。		

令和4年度 南信州喬木村創生有識者会議 有識者評価シート（令和3年度事業分）

基本目標2

基本目標2	数値目標_基本目標の達成度合いを測る数値	単位	基準値 (R1)	R3年度数値	R4年度数値	R5年度数値	R6年度数値	R7年度数値	最終年目標値 (R7)	目標値基準	達成度 (参考)	R3評価 評価シートより	
つながりを築き、新しい人の流れをつくる	○社会増減 直近5年間の延べ人数	人	△64 (H27~R1)	△38 (R3)	(R3~R4)	(R3~R5)	(R3~R6)	(R3~R7)	5 (R3~R7)	累計	53%	×	
			各年度目標値 (最終目標を按分)	△20	△10	0	10	25					
	基本目標達成に向けた施策	KPI_重要業績評価指標	単位	基準値 (R1)	R3年度数値	R4年度数値	R5年度数値	R6年度数値	R7年度数値	最終年目標値 (R7)	目標値基準	達成度	達成状況
	(1) 移住希望者への支援	移住・二地域居住相談件数	件	16	28	(R3~R4)	(R3~R5)	(R3~R6)	(R3~R7)	75	累計	187%	◎
				各年度目標値 (最終目標を按分)	15	15	15	15	15				
	(2) 関係人口創出への取組	喬木ふるさとnet会員数	人	290	304					400	単年度	76%	△
		喬木ふるさと会会員数	人	2,046	1,943					2,100	単年度	93%	×
	(3) 地域プロモーションの推進	喬木村ホームページアクセス数	件	115,758	132,262					150,000	単年度	88%	◎
	(4) 教育環境の魅力化の推進	学校HP及びICT活用教育発進HPのアクセス数	件	30,800	31,745					200,000	単年度	16%	×

	評価レベル	評価基準	評価
事業評価	○地方創生に非常に効果的であった	全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合	0
	○地方創生に相当程度効果があった	一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合	3
	○地方創生に効果があった	KPI達成状況は芳しくなかったものの、取組が前進・改善したとみなせる場合	8
	○地方創生に対して効果がなかった	KPIの実績値が基準値よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合	3
	-	評価なし	5

提案	移住相談件数も多くなり、一緒に対策を考えていきたい。分析して対処していくのが良いのでは。ホームページリニューアルを行う際、村在住のバスガイドさんの方から、村の案内をVRでできれば協力したいとのこと。このコロナ禍で先進的に行ってきたICT教育が活かされた。今後も積極的にPRしていくと良い。
提案	人口減は村の将来にとって重要な課題と思う。社会減がなぜ他の市町村より比率的にも高いのか、(同じ北部への転出が多い)転出理由をもう少し踏み込んで分析し、対策を考えるべき。また移住者支援で空き家をもっと活用できる対策を考えたい。
提案	物価高に対応して、新築補助金を増額してほしい。
提案	「村にある特徴的な財産」とその活用について分析し、全体的なランドデザインを作成し有機的な政策が必要。YouTube等利用してアクティブな発言をする人、団体を育成できないか。
提案	県外に住む村内育ちの学生から、学生応援宅急便からふるさと喬木村の温かさ、素晴らしさを知ったと発言があった。人の流れを作るための要は、若い人達のふるさとへの愛着、郷土愛の強さによると思う。若い世代への喬木村の良さの啓発をさらに推進したい。
提案	ICT教育の充実をもっとPRすべき。
感想	人の流れはインフラによって大きく変化すると思う。リニア、三遠南信を見据え、出来るだけ早く喬木村の未来図を描くのが良いのでは。
感想	若者を対象としたUターン支援、奨学金返還助成金などの取り組みは評価する。リニア関係の代替地や村営住宅の建設のような大掛かりな支援、若者が定着するための宅地造成や子育て世代への支援をさらに進めてほしい。
感想	移住人口、交流人口の増を二地域居住など通して考えきたが、関係人口創出へ重点を置いて、今後検討、研究、学習していきたい。

令和4年度 南信州喬木村創生有識者会議 有識者評価シート（令和3年度事業分）

基本目標3

基本目標3	数値目標__基本目標の達成度合いを測る数値		単位	基準値 (R1)	R3年度数値	R4年度数値	R5年度数値	R6年度数値	R7年度数値	最終年目標値 (R7)	目標値基準	達成度 (参考)	R3評価 評価シートより
結婚・妊娠・出産・子育ての希望を 実現しやすい環境を整える	○ 合計特殊出生率 5年間(R3~R7年度) 平均		人	1.74 (H27~R1)	1.78 (R3)	(R3~R4) (R4)	(R3~R5) (R5)	(R3~R6) (R6)	(R3~R7) (R5)	1.80 (R3~R7)	平均	99%	○
	基本目標達成に向けた施策			基準値 (R1)	R3年度数値	R4年度数値	R5年度数値	R6年度数値	R7年度数値	最終年目標値 (R7)	目標値基準	達成度	達成状況
	(1) 出会い、結婚の希望をかなえるための支援	喬木村に住所がある方の婚姻数 5年間(R3~R7年度) 平均	組	26.4 (H27~R1)	18 (R3)	(R3~R4) (R4)	(R3~R5) (R5)	(R3~R6) (R6)	(R3~R7) (R5)	30 (R3~R7)	平均	60%	×
	(2) 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	出生数	人	47	26					40	単年度	65%	×
	(3) 子ども・子育て世代の負担軽減支援	15歳未満人口	人	828	766					738	単年度	104%	×
	(4) 学力向上の推進	中学3年生の英検3級以上保有率	%	22.4	39.1					40.0	単年度	98%	◎
	全国学力・学習状況調査で、全国平均を上回った教科数	教科	2	1					5	単年度	20%	△	

	評価レベル	評価基準	評価
事業評価	○ 地方創生に非常に効果的であった	全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合	0
	○ 地方創生に相当程度効果があった	一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合	2
	○ 地方創生に効果があった	KPI達成状況は芳しくなかったものの、取組が前進・改善したとみなせる場合	6
	○ 地方創生に対して効果がなかった	KPIの実績値が基準値よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合	6
	-	評価なし	5
提案	合計特殊出生率が高いのは素晴らしい。放課後支援(児童クラブ)など施策は良い。学力向上を2点に絞って評価は適当か?不登校児やいじめの実態把握は?ICT教育のみではなく、喬木村の自然や特性を活かした小中学校教育はどうなっているか。教委と村政のつながり、保護者の声を聞く村政。		
提案	結婚出産はデリケートな問題なので、数値目標を掲げても苦しいところがある。2組のカップルが誕生しただけでも素晴らしい。		
提案	様々な取り組み、対応をされていることを知った。2組のカップル誕生を嬉しく思う。このカップル誕生の秘訣を知ること、まとめることが大切なのではないか。		
感想	26歳~36歳の女性が、5年間で61人減少している。昨年の出生数は26人となっている。若い世代の移住者、若い世帯の移住を増やし、若い人達が必要とする環境を整えることが大切。結婚相談事業でイベント実施し、2組のカップルが誕生したことは喜ばしい。		
感想	出会いの機会を多く設けることが大切。		
感想	保育園の新設、小・中学校のICT活用事業など、将来を担う子ども達への教育環境は整っている。		
感想	出産祝い金の改訂は理にかなっていると考える。今後も環境整備のために、行政と共に進化を図りたい。		
感想	喬木村に住み子育てをすることを、若者にアピールできる何かが足りない気がする		

令和4年度 南信州喬木村創生有識者会議 有識者評価シート（令和3年度事業分）

基本目標4

基本目標4	数値目標_基本目標の達成度合いを測る数値	単位	基準値 (R1)	R3年度数値	R4年度数値	R5年度数値	R6年度数値	R7年度数値	最終年目標値 (R7)	目標値基準	達成度 (参考)	R3評価 (評価シートより)	
地域が できる、 時代を 確保し、 安心し、 暮らす こと	○ 喬木村に住み続けたいと思う人の割合 村民意識調査		%	85.1	85.8				86.0%以上	単年度	100%	○	
	基本目標達成に向けた施策	KPI__重要業績評価指標	単位	基準値 (R1)	R3年度数値	R4年度数値	R5年度数値	R6年度数値	R7年度数値	最終年目標値 (R7)	目標値基準	達成度	達成状況
	(1) 小さな拠点の形成促進と交通ネットワークの確保等	小さな拠点整備計画の策定に向けた検討委員会等の組織数	組織	1	1					1	単年度	100%	○
		コミュニティバス利用者数	人	2,211	1,801					2,300	単年度	78%	×
	(2) 定住支援の促進	社会増減 直近5年間の延べ人数	人	△64 (H27~R1)	△38 (R3)	(R3~R4)	(R3~R5)	(R3~R6)	(R3~R7)	5 (R3~R7)	累計	53%	×
		各年度目標値 (最終目標を按分)		△20	△10	0	10	25					
		定住支援に係る事業の実績数	件	27	47					35	単年度	134%	◎
	(3) 村民主体の地域防災の環境整備	消防団員数	人	170	165					180	単年度	92%	×
		地区防災計画策定	地区	0	0	(R3~R4)	(R3~R5)	(R3~R6)	(R3~R7)	18	累計	0%	×
		各年度目標値 (最終目標を按分)		3.6	7.2	10.8	14.4	18					
	(4) 村民の安全安心の確保	犯罪認知件数	件	23	6					20	単年度	333%	◎
	(5) 既存ストックの点検・修繕	橋梁・トンネル修繕数	件	4	1	(R3~R4)	(R3~R5)	(R3~R6)	(R3~R7)	11 (R3~R7)	累計	45%	○
			各年度目標値 (最終目標を按分)		2.2	4.4	6.6	8.8	11				
	(6) 村民が元気に暮らすことができる環境づくり	週1回以上スポーツをしている人の割合 村民意識調査	%	35.6	37.7					45.0	単年度	84%	△
元気高齢者の割合 75歳以上で要介護認定を受けていない割合		%	75.8	73.5					77.0	単年度	95%	×	
(7) 活力ある地域づくりの促進	NPO加入団体数	団体	19	19					19	単年度	100%	○	
	ボランティアセンター登録者数	人	781	746					800	単年度	93%	×	

事業評価	評価レベル	評価基準	評価
	○ 地方創生に非常に効果的であった	全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合	0
○ 地方創生に相当程度効果があった	一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合	5	
○ 地方創生に効果があった	KPI達成状況は芳しくなかったものの、取組が前進・改善したとみなせる場合	7	
○ 地方創生に対して効果がなかった	KPIの実績値が基準値よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合	2	
-	評価なし	5	
提案	空き家バンクの成約、新築補助金、住宅用地取得補助金と前年より多く活用されたが、社会減は止まらない様相。村営住宅、分譲地に期待する。長引くコロナ禍により、防災訓練なども中止となり、今後災害発生した場合を考えると不安である。自主防災組織をさらに強化するなどで、安心して暮らせる村づくりを計画してほしい。		
提案	自主防災組織の拠点となる施設の整備が必要。高齢者が地域で豊かに暮らすための拠点とボランティアの確保。日常的に集まりやすい環境づくりが出来るが良い。		
感想	福祉、高齢者支援はきめ細かくともいいと思います。		
感想	資料のみでの評価は難しく、この判断が正しいか不安です。解説等お聞きしてから事業評価したかった。		
感想	数値目標項目が多いが、出来ることについては着々と取り組まれていると感じる。今後はR7年の目標値達成に向けて努力していくことが大切だと思う。		
感想	地区防災計画策定0%となっているが、現状の進行状況はどうなっているか。策定進行中の地区はあるか？		
感想	空き家バンク成約8件、住宅用地取得補助金交付10は広報の良さ、適時対応の成果と思われる。この体験を次に繋げることを期待する。		
感想	定住支援について、優位性をPRすべき。		
感想	喬木村に住みたいと思わせる何か足りない気がする。		